

<卒業論文概要>

社会教育事業としての長期集団宿泊体験活動の教育的意義と効果 —つくば路 100km 徒歩の旅を事例として—

根岸創馬*

I. 本研究の目的

「生きる力」という教育目標が提唱されて以来、文部科学省は「生きる力」の育成の基盤として「体験活動の充実」の重要性を今日まで一貫して示してきた。特に“自然の中での長期的な集団宿泊体験としての体験活動”（以下、長期集団宿泊体験活動）が推進されてきた。しかしながら、文部科学省や各種調査・研究は、学校を実施主体とし、クラス単位や学校単位で行われる活動を焦点化しており、児童生徒個人を対象に地域の中で社会教育事業として行われる長期集団宿泊体験活動（これを「社会教育事業としての長期集団宿泊体験活動」と定義する）について研究された例は少ない。だが、社会教育の枠組み・集団の中での長期集団宿泊体験活動であれば、慣れ親しんだ学校の友人関係や教員から離れ、非日常的な環境や文化、人々との接触など、より豊富で刺激的な体験が得られると考えられる。

そこで本研究では、社会教育事業「つくば路 100km 徒歩の旅」（筆者がスタッフとして在籍）の参加経験者へのインタビュー調査を核として、「社会教育事業としての長期集団宿泊体験活動」の教育的意義と効果を明らかにする。

II. 論文の構成

序章 問題の所在と研究の目的

第1節 問題の所在と研究の目的

第2節 研究の課題と方法

第1章 長期集団宿泊体験活動が期待される背景

第1節 「生きる力」の誕生と体験活動の推進

第2節 長期集団宿泊体験活動の推進と教育的意義

第2章 長期集団宿泊体験活動の実践

第1節 長期集団宿泊体験活動の実情

第2節 長期集団宿泊体験活動の教育的効果に関する先行研究の整理

第3章 社会教育事業としての長期集団宿泊体験活動の教育的意義と効果

第1節 「つくば路 100km 徒歩の旅」活動内容（2019年の活動を事例として）

第2節 インタビュー調査の結果と考察

第3節 社会教育事業としての長期集団宿泊体験活動の教育的意義と効果の考察

終章 本研究のまとめと課題

第1節 本研究のまとめ

第2節 本研究の課題

III. 論文の概要

第1章では、学習指導要領解説や文部科学省の提言等の内容の分析から、以下を明らかにした。

* 筑波大学人間学群教育学類4年

まず、体験活動は「生きる力」や社会性の育成といった様々な文脈で幅広い教育的意義があるとされ、学校教育における体験活動の推進やそのための国の体制整備が行われていた。

特に長期集団宿泊体験活動は、平素と異なる生活環境における活動の中で、多様な他者との協働や公衆道徳の理解によってよりよい人間関係や集団を形成する態度を養うことや、自然や文化への関心を高めることがそのねらい、すなわち教育的意義とされ、子どもの協調性や自律性、「生きる力」、学びの意欲といった様々な資質・能力をはぐくむ高い効果が期待された。

第2章では、学校教育の現場では教員の長期集団宿泊体験活動の効果への理解不足や、活動の計画や実施のための体制づくりの困難さから、長期集団宿泊体験活動がほとんど実施されていないということを確認した。

また、国立青少年教育振興機構等による統計的な調査や、特定の体験活動を対象とする量的・質的調査から、長期集団宿泊体験活動が子どもの「生きる力」や協調性、社会性、規範意識、より良い人間関係や集団を形成する態度の育成といった効果を持つことを明らかにした。

第3章では、「つくば路 100km 徒歩の旅」（以下、当事業）の活動記録と当事業の参加経験者に対するインタビュー調査の結果の分析から、当事業が大きな「成功体験」によって子ども達に自信や励み、厳しい環境・状況でも強く生きる力等をもたらすといった教育的意義を有していることを明らかにした。また、その成功体験を成り立たせる当事業の特質・要素として、①模範となるスタッフによる支援、②非日常的な集団・環境、③子どもたちの継続的な参加の3点を抽出した。これら3点への分析から、このような教育的効果は当事業が「社会教育事業としての長期集団宿泊体験活動」であるからこそ生み出されるということを示した。さらに、参加経験者のスタッフとしての事業への参画や、地域（地元）での実施、形に残る“モノ”や記憶に残る“言葉”といった仕掛けが、その教育的効果を長期間持続させ、より一層に意識化・熟成させると分かった。

以上から、本研究の成果として、社会教育事業としての長期集団宿泊体験活動は学校行事としてのそれと同等あるいはそれ以上の教育的意義と効果を持つ大きな可能性があることが示された。また、長期集団宿泊体験活動を学校行事としてではなく地域の社会教育事業として行う場合、地域が学校に協力するのではなく、学校が地域に協力するという連携の在り方は有意義であると指摘した。

IV. 主要参考文献

- ・文部科学省(2008) 体験活動事例集—体験のススメ—[平成 17、18 年度 豊かな体験活動推進事業より]
- ・文部科学省(2008) 小学校学習指導要領解説特別活動編, pp. 94-102
- ・藤村法子・水野雄希(2012) 「『生きる力』を育む長期集団宿泊体験活動」, 京都教育大学教育実践研究紀要, 第 12 号, pp. 231-240